

上下水道の処理課題で講演

日本技術士会中国本部
本部上下水道部会

7月豪雨や下水管調査も紹介

日本技術士会中国本部
上下水道部会(部会長)
今井田敏宏・復建調査設
計保全構造部技術次長)
主催の2019年度例
会・講演会がこのほど、
広島市内で開催された。
全国上下水道コンサルタ
ント協会中国・四国支部

と共催で、5回目の今回
は基調講演1題と講演3
題が行われ、Web中継
の4会場(東京・大阪・
高松・鳥取)を含め、約
1100人が聴講した。

講演会の冒頭、今井田
部会長が「全ての講演が
興味深い内容で貴重な知
見を」とあいさつ後、大
田啓一・滋賀県立大学名
誉教授(中国水工環境ア
ドバイサー)が「水処理
技術の今日的課題」と題
して基調講演した。



岡田課長



大田名誉教授



今井田部会長



西川氏



松田係長

大田氏は緩速の過の効
率化として、第1ろ過池
の豆砂利層で最適砂粒径
を直径1・5ミ、第2ろ
過池の砂ろ過層で藻類繁
茂により、ろ過能力が向
上した事例紹介なども
に、琵琶湖でのCOD上
昇原因として、水中生物
生成の腐植物質の増加を
示唆し、「過マンガン酸
カリウム少量を用いたC
ODの環境指標は適切
か」と問題提起した。

講演は▽平成30年7月
豪雨災害時の対応につい
て(岡田淳・広島市水道
局維持課長)▽下水管調
査のさらなる効率化を目
指して閉鎖性空間調査
用ドローンの有効性▽
(松田英士・広島市下水
道局管路改築係長)▽給
水用高密度ポリエチレン
管の耐震性評価(積水化
学工業の西川源太郎氏)

岡田課長は落橋に伴う
φ300添架管流失、道
路損壊に伴うφ150管
露出および継手漏水、配
水池敷地の法面崩壊な
ど、豪雨災害の被害・復
旧状況を紹介し、教訓と
して土木業者との連携、
豪雨災害も配慮した災害
対策の必要性などを挙げ
た。

松田係長は、下水道管
きよ点検・調査を「日常
的」「改築修繕用」「事後
対応型」に大別している
ことや、管口テレビカメ
ラによる簡易調査、テレ
ビカメラまたは潜行目視
による詳細調査の実施内
容を説明。ドローンを用
いた実証実験では、効率
性や安全性が図られ、簡
易調査としての有効性を
確認したと強調した。

西川氏は、地震時被害
が給水装置に集中してい
ることを踏まえ、給水青
ポリ管をレベル2地震動
で耐震性評価実験した結
果、地震動の方向・配水
管の管種に問わず、通水
機能維持が確認できた
まとめた。